

白峯神宮奉納

場所 白 峯 神 宮 神 樂 殿
日時 令和4年5月5日(木) 午前10時

主催 白 峯 神 宮
宮 司 山 田 蓉

共催 日本古武道振興会
会 長 加 藤 紘

白峯神宮奉納演武

参加流派 22 参加人数 93 名

- 1 鞍馬流劍術 (柴田 章雄)
- 2 示現流兵法 (東郷 重賢)
- 3 夢想神伝流居合術 (高橋 次秀)
- 4 淺山一傳流兵法 (関 展秀)
- 5 無雙神傳英信流拔刀兵法 (森本 邦生)
- 6 小野派一刀流劍術 (鈴木 ゆき子)
- 7 細川家伝統兵法二天一流 (宮田 和宏)
- 8 荒木流軍用小具足 (千葉 明)
- 9 直心影流薙刀術 (荻原 晴子)
- 10 神道無念流劍術 (小川 武)
- 11 澁川一流柔術 (森本 邦生)
- 12 神夢想林崎流居合術 (鈴木 ゆき子)
- 13 戸山流拔刀道 (中村 朋子)
- 14 天道流薙刀術 (木村 恭子)
- 15 天真正伝香取神道流兵法 (飯篠 快貞)
- 16 夢想神伝居合重信流詰合 (津村 恵治)
- 17 立身流 (加藤 紘)
- 18 無想神傳流拔刀術 (小川 武)
- 19 双水執流小具足腰之廻組討 (宇佐美 裕司)
- 20 無双直伝英信流居合兵法 (石本 一平)
- 21 柳生心眼流體術 (梶塚 靖司)
- 22 神道夢想流杖術 (江角 和敏)

令和 4 年 (2022) 5 月 5 日

白峯神宮 奉納演武順序

一、鞍馬流劍術（大野 将監）

二、示現流兵法（東郷肥前守重位）

柴田章雄（東京都）

柴田章雄
柴田彩水
柴田雄一
松井康一

東郷重賢（鹿児島県）

東郷重賢
白坂耕一
有村博康
藤村亨
松窪光裕
塚本嘉平
徳永重臣
デュルソ・アンリ
アレキサンダー・ブラッドショー
築地克秀

三、夢想神伝流居合術（林崎甚助重信）

四、淺山一傳流兵法（淺山一傳齋重晨）

五、無雙神傳英信流拔刀兵法（林崎甚助重信）

高橋次秀（東京都）

高平本橋
清水水利
清水公叡
蒼理恵
馬子航則正

関展秀（茨城県）

関塚田
黒澤
若田佳
倉若
禎大

森本邦生（広島県）

森本邦
林元大
堂元慎
松田
至介

六、小野派一刀流劍術（伊藤一刀齋景久）

鈴木 木 ゆき子（東京都）

七、細川家伝統兵法二天一流（新免武藏玄信）

宮田 和 宏（福岡県）

八、荒木流軍用小具足（荒木夢仁齊源秀繩）

千 葉 明（神奈川県）

鈴木 木 木 木 木
鈴 木 木 木 木
茂 井 井 井 井
酒 竹 竹 竹 竹
大 藤 藤 藤 藤
後 内 内 内 内
宮 正 喜 大 真 ゆ
一 典 朗 章 地 香
一 典 朗 章 地 香

宮田 和 宏
深 谷 田 和 宏
長 富 谷 田 和 宏
篠 上 田 富 谷 田 和 宏
河 上 田 富 谷 田 和 宏

千 葉 明
三 浦 葉 明
鈴 木 浦 葉 明
優 輔 博 明

九、直心影流薙刀術（山田平左衛門藤原光徳）

十、神道無念流劍術（福井兵右衛門嘉平）

十一、澁川一流柔術（首藤藏之進満時）

萩原晴子（兵庫県）

赤谷崎 口崎 貴典 克し 子美子

小川武（東京都）

小齊土山 吉屋藤川 明正 政 文 武 永子 則文

森本邦生（広島県）

森林堂 本元 大邦 生 介 至

十二、神夢想林崎流居合術（北條甚助林崎平重信）

鈴木 木 ゆき子（東京都）

鈴木 木 眞理 香
鈴木 木 眞理 香
後藤 木 眞理 香
酒井 正典
宮内 一章

十三、戸山流抜刀道（中村泰三郎）

中村 朋子（神奈川県）

高野 弘光
阿部 英夫

十四、天道流薙刀術（齋藤判官伝鬼房）

木村 恭子（東京都）

山橋 順子
貴島 美津江
吉富 美津江
アレック・ベネット
ブライアン・ピーターソン

十五、天真正伝香取神道流兵法（飯篠長威斎家直）

飯篠 快貞（千葉県）

京増 重利
荒野 祥司
櫻井 俊也
近藤 智紀

十六、夢想神伝居合重信流詰合（林崎甚助重信）

津村 惠治（埼玉県）
関 展 秀

十七、立身流（立身三京）

加藤 紘（千葉県）
加藤 裕
加藤 介
江尻 裕

十八、無想神傳流拔刀術（林崎甚助重信）

小川 武（東京都）
小川 昭
萩崎 彦
掛川 明
吉田 永

十九、双水執流小具足腰之廻組討（二神半之助正聰）

宇佐美 裕司（埼玉県）
宇佐美 裕
馬場 真二
馬場 真郎
舍利 秀雄
舍利 弘
矢部 真弘

二十、無双直伝英信流居合兵法（林崎甚助重信）

石本 一平（兵庫県）
石本 一平

二十一、柳生心眼流體術（荒木又右衛門）

二十二、神道夢想流杖術（夢想權之助勝吉）

梶 塚 靖 司
（栃木県）

高 前 大
橋 田 和
慶 樹 光
太 里 明

江 角 和 敏
（東京都）

田 田 鹿
中 中 野
慎 遼 雄 幹
一 太
郎 郎 貴 也

古武道振興会沿革

日本古武道振興会は、昭和十年四月二日、松本学貴族院議員、小山松吉司法大臣、二荒芳徳伯爵等、当時の有識者と古武道各流派代表者が集まり結成されました。日本の誇るべき伝統文化財である古武道の衰微を憂い、その保存と振興を図ることを目的としました。昭和十五年四月四日には、財団法人の許可を受け多彩な活動を展開し大きな成果をあげてまいりましたが、終戦に伴う米軍占領下という事情もあり、財団法人を自主解散し、現在にいたる任意団体になりました。

古武道振興の主旨は、日本の誇るべき文化財である日本武術の神髄を体得錬磨し、青少年に普及することにあります。「武は戈を止める」と申されております如く日常の武術修練によつて得た心技体の実力をあくまで表面に示さず謙虚に余裕をもつて自己及周囲を洞察する心と体を養うことにあります。その武の心を心として各流派宗家、師範を中心に毎年十一月二日の明治神宮の演武大会、伊勢神宮(式年遷宮年)、靖国神社、下鴨神社、白峯神宮、熱田神宮、等戦前に引続き奉納演武が恒例となっております。

日本古武道振興会としては、活動の一環として古武道大会開催の他、流儀解説の普及にも努めてまいりました。昭和三十七年発行の機関誌「真鋭」第二号で各流儀の流祖伝系、演武者の経歴を掲載したのをはじめ、昭和四十五年には「真鋭」別冊で同じく流儀解説を紹介し、その後本格的な流儀解説書を創立四十六周年(昭和五十六年)に発行し、創立五十周年(昭和六十年)からは五年ごとに創立記念古武道大会を開催すると同時に、流儀解説書を改訂刊行してまいりました。平成二十七年七月十九日(日)には、創立八十周年記念大会を中野サンプラザホールにて開催。

令和二年七月五日(日)には、創立八十五周年大会を伊勢神宮にて行う予定でしたが、コロナ禍の為中止。今後も古武道の益々の発展と隆盛を期して参ります。



日本古武道振興会

事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町11-12 柴田章雄

ホームページ <http://kobushin.jp/>
メール kobudoushinkoukai@yahoo.co.jp